

知的創造の喜びとインセンティブ 及び 競争力強化について

2003年2月18日

浜松ホトニクス株式会社
代表取締役社長 晝馬 輝夫

人類には未だ知られてない事、出来ない事が無限に有る。

- 其れを見つけるのがサイエンスで、その結果、科学が生まれる。科学を学んで産業を興す。
- 産業は競争である。勝てなければ滅びる。
- 勝つためには、人類未知未踏の事柄を一人一人が身に付けなくてはならない。
- 論語に曰く。学びて時にこれを習う、又喜ばしからずや。
- 学びて習わざれば、即ち危うし。
- 習うとは、身に付ける事である。自分の体に染み込ませる。自分自身の物とする。

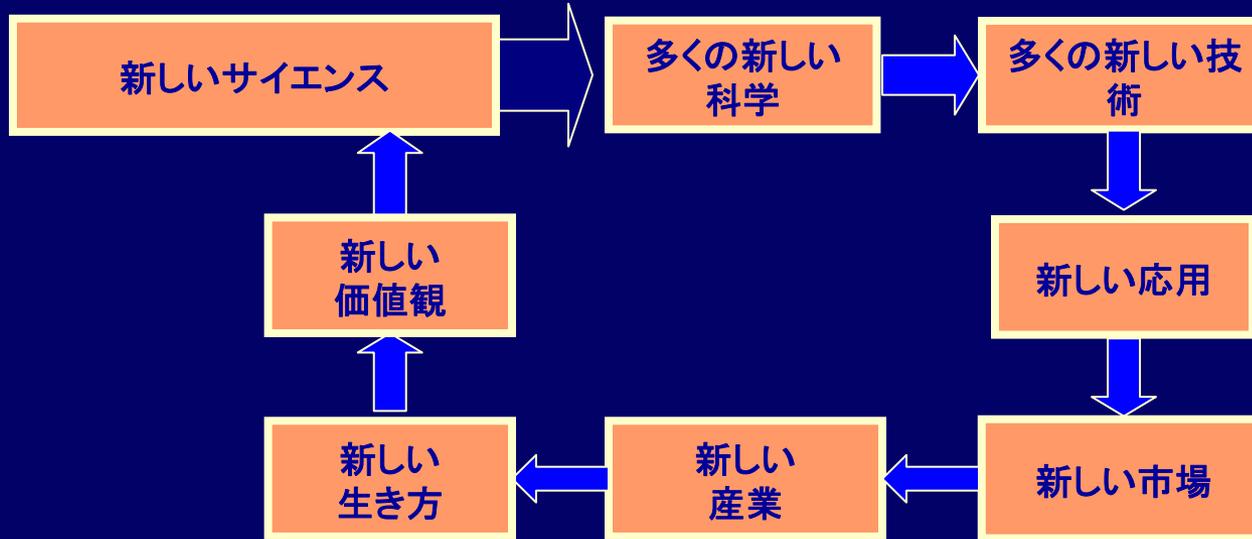
(生まれたての赤ちゃんが自分で母親の乳をしつかり吸えるように。)

日本産業の進むべき道。

- 1) 人類には未知、未踏分野が無限と言って善いほど存在し、これを切り開くには独自の文化を熟成させる事が必要であります。即ち絶対真理の存在に対する対処の仕方を文化と呼ぶのだと私は信じます。
- 2) 自分だけが知り、又自分だけが出来る事を見出し、それらを持つ人達が集まって、要すれば既存の知識技能も加えて、世界で自分達だけが出来る産業を構築すべきであると思う次第です。
- 3) 政治と経済の面に付いて考えると、明治以来産業振興という名目で各種の産業援助の方 策が採られ、これらが長年に渡り定着するといつしか産業と政治が密接な関係が生じ、国民生活の向上が本来の目的である筈が何時しか産業振興が主目的で、各種許認可等の規制により国民の福祉より産業保護、独占助長の風潮が、時ともに公然と当たり前利権となり国会議員の所謂族議員のはびこる様相に成り、今や各省庁も産業保護の為に存在すると言っても過言でないような状態であります。「一刻も早く正しい姿に帰るべきと存じます。」これが真の規制解除であると思う次第です。

光技術とニュービジネス

- 人類には知らないこと、できないことが無限にある



- 光とは物質を造る糊である。
- 光技術はどこまで進んだか。
 - Single Photon の検出
 - Femto Sec. の時間分解
- 各種応用分野について。
 - バイオ、医療、生命科学、遺伝子工学
 - 通信、情報
 - エネルギー (レーザー核融合)
 - 農業、宇宙
- 新しい価値観

知識の種類

- 暗黙知
Tacit Experience
- 形式知
Explicit Knowledge

Originally published in English under the title
The Knowledge-Creating Company:
How Japanese Companies Create the Dynamics of Innovation
by Ikujiro Nonaka and Hirotaka Takeuchi, and Copyright 1995
By Oxford University Press Inc

HAMAMATSU